

【質疑応答】

《新しい広島県公立高等学校等入学者選抜制度に係る成果と課題について》

中国新聞 新しい公立高校の入学選抜制度の成果と課題について、改めて教育長としての新制度の総括的な評価を伺いたと思います。論点ごとに成果や課題について挙げていらっしゃるけれども、15歳の生徒に身に付けてもらいたい力というものがある中で、今回の新制度の実施が、目的の実現につながったのか、どのように評価しておられるか、お考えをお願いします。

教育長 はい。ありがとうございます。先ほどもそれぞれの部分については申し上げましたけれども、この度、関係団体それから当事者である、現在高校一年生の皆さんにアンケートを行わせていただいて、もちろん課題はまだまだございますけれども、総じて、今回の新しい入学者選抜制度については、目的を達成したというふうに思っております。

その中で、やはり、おおむね当初のねらいに即した成果が表れていると思っておりますけれども。改善の大きな柱としては、自己表現の実施ということでございます。これは今まで先生がですね、いわゆる内申書というもののの中に、所見欄というのがございまして、そこでいろいろ書いていただいていたこともございますけれども、自分で表現した方がいいのではないかと。これ都市伝説でですね、先生にちょっとゴマをするとかですね、言いたいことが言えないとかクリティカルな表現ができないとか、というようなことが、事前のパブリックコメントでもございましたけれども、そういったことを解消するという意味においてもよかったのではないかと思うのと、あと今後、彼らがですね、就活とかいろんな場面で、やはり、自己表現をする場というのが必要になってまいります。その時に今回の自分を振り返るという経験が多分に生かされるんじゃないかというふうに思っています。ただこれは、一朝一夕にできるようなものではなくて、それこそ乳幼児教育あるいは小学校教育のほうからですね、まず自分とは何者かという自己認識、それから自分を開示する、そのあとこの自己表現、これを15歳の子供たちに身に付けさせたい力というふうに置いておりましたその後、自己実現というようなことがありますけれども、この自己認識、自己開示、自己表現、自己実現に対する理解が、深まったかなというふうに思っております。

また、この自己開示をするには、とにかく安全で安心な環境づくりが必要ですよということで、これ中学校だけではなく、小学校の先生方にも、そのためには、職員室が安心安全で、話ができる、あるいは、教室の中で児童生徒と担任が言いたいことが言えるというような、こういう環境づくりをしてくださいねというふうをお願いしていたところでございまして、これについても、こういう環境づくりができたからこそ自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力というのが、得られたというふうに分析しております。

また、調査書の簡素化につきましても、欠席日数の記載や、教員の所見欄を削除するという点で、かなり簡素化が図れたということと、学習の記録につきましても、今のあなたの成績を見ますよということで、第3学年は3倍にするという重み付けを行ったことによりまして、例えば途中まではですね、成績が不振であった生徒さんあるいは、欠席日数が多くって、ちょっと私はもうこれ復活できないなというふうに思ってた生徒さんにとっても、高校段階で復活できるんだよと。やり直せるんだよってというようなことで、大きなメッセージになったのではないかと考えております。一方でですね、御意見を伺う中で浮かび上がってまいりましたのは、一次選抜の1日目にですね、もう少し時程の短縮ができないかとか、自己表現の質問のあり方の改善ができないかとかこういった課題につきまして、出てまいりましたのでこれも速やかに改善を行いたいというふうに思っております。いずれにいたしましても、中学校の先生方、高校の先生方、この入試に関わってくださった方、あるいは保護者の皆様、関係者の皆様には厚くお礼を申し上げたいというふうに思っております。以上です。

中国新聞 もう何点かお聞きします。自己表現については、事前に、評価が難しいのでは

ないかという意見があったり、寄せられていた意見の中でも、評価が難しいという意見だったり、無難な評価になってしまう傾向があるという意見が寄せられているようです。そうした中で、適正な評価が出されたという形でまとめていらっしゃるかもしれませんが、そのあたりの理由というか、根拠の部分を補足してお聞きできることがあればお願いします。

教育長

はい。そういった意味では今までの所見がどのような評価基準でどういうふう
に評価されてきたかっていうことにも大きく関わってくるかと思っております。
所見ですね、例えば0点と100点というふうにはなりません。ですから、今回
の自己表現で評価が難しいという御意見は分かりますけれども、教育委員会とい
たしましても、ループリックをきっちり作ってですね、何回も何回も研修をさせ
ていただいて、評価者の差がなるべく出ないような形で、あるいは、1人で対応
するのではなくて複数で対応するっていうふうな形でもお願いもしておりました。
大変御苦勞をお掛けしたと思っておりますけれども、そういった意味では適切に評価を
していただけたのではないかと思います。

評価以上にですね、やはり子供たちにとりましては、先生が自分を評価するとい
うことではなくて、自分で自分のいいところを見つけて、そしてそれを表現す
るっていう、これはやはり自分に対する、なんて言うんですかね、ポジティブな
とらえ方ができる形になるのではないかと思います。そちらの効能の方が非常
に大きいんじゃないかなと思っております。特段やっぱり日本人は自己肯定感
が低いというふうには評価されている中で、今回の入学者選抜制度をきっかけに適
切な自己肯定感を持ってほしいなというふうには思っております。

中国新聞

改善点の部分で、質問の在り方を改善するという点を挙げられてらっしゃいま
すけれども、具体的にどういった課題があって、どのように変えていくのか、現
段階の考えとか方向性があればお願いします。

教育長

担当の方からお話しします。

今川入学者選抜制度推進課長

自己表現を生徒さんがした後に、検査官の方から質問をすることを織り込んで
いました。その時に、検査官や検査場によって違う質問をされると、受検者間で
差が出てしまう、そこの公平感を保たないといけないということで、こういう形
である程度統一しましょうという、ちょっと具体には検査の中身なので申し上げに
くいのですが、統一的な例示をしていました。「今の自己表現をもう少し詳しく説
明してください」といったような、質問を示していたのですが、ちょっと画一的に
なりすぎてですね、必ずしも生徒がやった自己表現とリンクしない形での質問に
なってしまったというので、ちょっと受検生が戸惑ったということがありました。そ
ういった声がたくさんありましたので、これをもっと実際に合った形、こういう
ふうには、まだ具体はこれからですけども、そういうふうな改善をしていきたいと思
っております。

教育長

受検者にとってみるとですね、もう自己表現をやり切ったと思ってるのに、も
う少し詳しくって言われると、いやもうやり切ったのに、これ以上何を聞くのか
なっていうふうには思った生徒もいたのではないかという、そういう想像が付きま
す。

中国新聞

意見の中でも、今回、新制度の実施によって、私立を選ぶ生徒も増えたんじや
ないかと。教育長として今回の新制度への変更が私立を選ぶ生徒の増加につな
がったのかどうか、どのようにお考えでしょうか。

教育長

私立の入学者数を見ますと、昨年度どおりだというふうには思っておりまし
て、これは、一昨年度とも、入学者数も変わりませんので、結果として、御意見
の中でもございましたし、何名かの方が私立に流れてしまったのではないかとい
うことも私も個人的にも聞きますけれども、結果としてそういう数字には現れて
いなかったのではないかというふうには認識をしております。

《上下高校・湯来南高校・西城紫水高校の来年度の入学定員について》

中国新聞

公立学校の入学者選抜の実施内容についてという資料を出されていますが、統

廃合の議論の対象になっている上下、湯来南、西城紫水の3校も入っていると思うんですけども、これは3校も来年度募集するという意味なのか、それとも、あくまで別なのか確認させてください。

教育長 はい。来年度の入学定員につきましては、9月の教育委員会会議に付議することとしておりました、他の県立高校も含めて来年度の生徒募集につきましては、教育委員会として何らかの決定をしたという事実はございません。なお、あくまで一般論としてですね、中学校3年生が自らの進路の選択に向けて、志願先の高等学校を検討しているという中で、県立高等学校の生徒募集を翌年度から停止するというにつきましては、中学生の進路選択に大きく影響を与えるというふうに思っております。3校の今後の在り方につきましては、そうした点を踏まえましても慎重に検討してまいりたいというふうに考えておりますけれども、決定をしたというようなことは事実としてはございません。

中国新聞 今回の説明を解釈すると、急に変えたら受検生が戸惑うので、一般論としてはそういうことはしないというニュアンスだと思うんですけども、3校については基本的には来年度も募集を継続する方向で考えているというふうに理解してよろしいでしょうか。

教育長 今申し上げましたけれども、教育委員会会議の方で決定したという事実もありませんので、お答えはちょっとはっきりとはしかねるという形になります。

《図書館リニューアル事業について》

H O M E 学校図書館のことでお伺いしたいのですが、学校図書館のリニューアルについて、赤木氏が指導しないということになりましたが、方針転換をされた理由をちょっとお伺いしていいでしょうか。

教育長 はい。今までですね、21校の学校の図書館のリニューアルをしまして、かなり教育委員会といたしましてもノウハウがたまってきました。そういうこともございまして、今回は、広島県教育委員会の指導のもと、学校主体、学校の方でリニューアルをしていくというふうな形にしようかと思っております。

※崎秘書広報室長 すいません、22校です。

教育長 失礼しました。22校だった。ごめんなさい数え間違いです。